

「総合的な探究の時間」が拓く未来

2025年2月8日(土曜日)、本学経済学部101教室において、「『総合的な探究の時間』が拓く未来」というテーマで、第14回大分県高大連携シンポジウムを、大分県教育委員会のご後援をいただいて実施しました。県内外より、高等学校関係者、大学関係者、大学生、高校生、一般の方々等、約100名の皆さんに参加していただきました。

司会は、経済学部3年・萩尾美咲さんが担当しました。

14時から行われた開会行事では、主催者である本学の足立一馬・理事(高大接続担当)が開会の挨拶をし、来賓としてお越しいただいた大分県教育委員会の小野和正・高校教育課長にご挨拶をいただきました。

基調講演では、株式会社DISCOVERY STUDIOの今村亮・代表取締役役に「正解のない時代の学びとは？」と題して話していただきました。高校の教科・科目で探究的内容のウエイトが増していること、大学入試が学力競争からマッチングへ変化しつつあること、探究の学びに火をつけるには「ナナメの関係・自己決定・対話・教員のチーム体制」が重要であること、などお話しいただきました。講演の中に大学生の体験談や参加者の個人ワーク、参加者同士の意見交換も取り入れられ、講師の熱意あふれるお話で、あっという間の1時間でした。



続いて高等学校2校による事例発表を行いました。別府翔青高校は、商業科3年生5名が「ザボンでつながる別府の輪」と題して、別府市の特産品を活かした商品の開発・販売に取り組んだ活動の発表を行い、秋月大輔先生が同校の探究学習について説明しました。日田高校は、本学経済学部と連携して取り組んだ探究学習「水郷ひた学Ⅰ」について安倍あいみ先生が説明したあと、2年生の二つの班(各4名)が「高齢者を楽しい食事で健康に」、「未来に繋ぐ部活動」というテーマで取り組んだ探究学習の成果を発表しました。

この後、今村氏、美谷薫・経済学部准教授、秋月先生、安倍先生、佐藤陽大先生(日田高校)が登壇し、宮町良広・経済学部教授の進行による意見交換会を実施しました。参加者から質問用紙によって出された質問に対して登壇者が回答したあと、「どうやって生徒の心に火をつけるか」、「生徒の自己選択や自己決定をどうやって引き出すか」、「教職員の体制作りはどうあるべきか」などのテーマで意見交換をしました。



最後に、高見博之・経済学部長が参加者へのお礼を述べて閉会となりました。参加者アンケートでは、「他校の発表を聞いて良い刺激になったし、有意義な時間になりました(高校生)」、「大変面白く勉強させていただきました。高校での探究の取組も広がってきましたが、『わくわく』(内発的動機づけ)や『やりたいことをやる』という面にまだ課題を感じます(高校教員)」、「生徒のみなさんの発表が素晴らしかったです。また、先生方のサポート、楽しく活動されている様子に感銘を受けました。加えて、今村さんのおかげで会自体の雰囲気がほぐれ、とても楽しい時間になりました。ありがとうございました(一般)」などの感想が寄せられました。